

## 滋賀・尾上遺跡

おのえ

- 1 所在地 滋賀県東浅井郡湖北町尾上
- 2 調査期間 一九八四年(昭59)七月～九月
- 3 発掘機関 滋賀県教育委員会・財滋賀県文化財保護協会
- 4 調査担当者 兼康保明・奈良俊哉
- 5 遺跡の種類 湖底遺跡
- 6 遺跡の年代 平安時代前期
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(竹生島)

尾上遺跡は、余呉湖に源を發し南流する余呉川が、神奈備山で知られる山本山の裾野で大きく西へ方向を変えて琵琶湖に注ぐ河口部の南側に位置している。付近には葛籠尾崎湖底遺跡や尾上浜遺跡、今西湖底遺跡、延勝寺湖底遺跡などの湖底遺跡が集中して存在しているところである。調査は水資源開発公社による湖岸堤管理用道路建設に伴う事前発掘調査として実施した。

今回の調査は、前年度に湖北町教育委員会が調査を行った地区の西側である。調査の結果、琵琶湖の水面より約3m低い、標高八一・五mの高さで、平安時代前期の遺物包含層を検出した。この遺物包含層からは、人形八点・斎串九点・折敷一点等が出土した。遺物は木製品がほとんどで、土器はごくわずしか出土しなかった。なお、木製品は散乱した状態で出土した。また、今回報告することになった幅の狭い板状の木簡と墨書された馬形代もこの包含層より出土したものである。

### 8 木簡の釈文・内容

(1) 「□黒毛□」

1.49×(2.8)×(5)

馬形代のほぼ中央に「□黒毛□」の四文字が書かれていることが、赤外線写真によって判明した。二・三文字目は読めるが、一・四文字目は判読しかねるものであった。なお、頭部と考えられる部分には馬の絵が描かれていた。

幅の狭い板状の木簡については現地では墨の残りがある様に思えたため、奈良国立文化財研究所に鑑定を依頼したところ、墨痕はあるが判読出来なかったということであった。

(奈良俊哉)